

2030 想像から創造

中小企業が日本をつくる！ SDGsとどう向き合うか

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



本パンフレットの趣旨

2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は社会課題の多様化を背景に、世界各地でその取組が広がっています。そうした中、中小企業は何をすべきでしょうか。SDGsへの向き合い方から事業への活かし方をご紹介します。

中小企業はSDGsとどう向き合うか

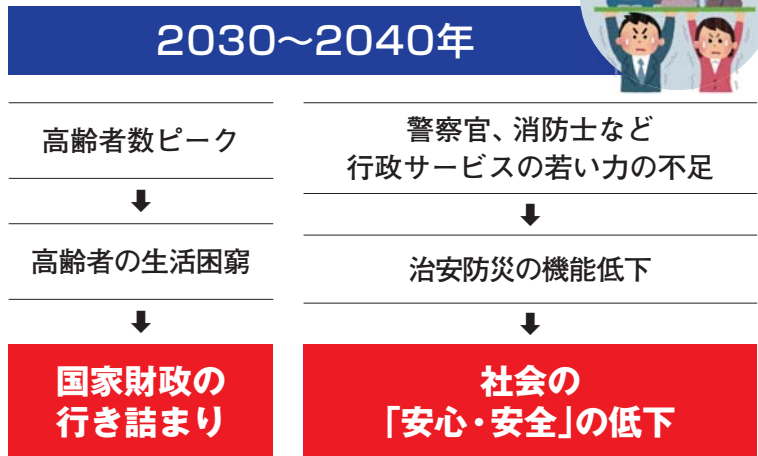
「SDGsってなに？」

2015年、国連サミットで国連に加盟する193カ国の全会一致で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）。このパンフレットでは、「SDGsってなに？」という問いを持つ中小企業の経営者向けに、SDGsが採択された背景からSDGsが中小企業に与える影響、SDGsへの取り組み方などを分かりやすくまとめました。

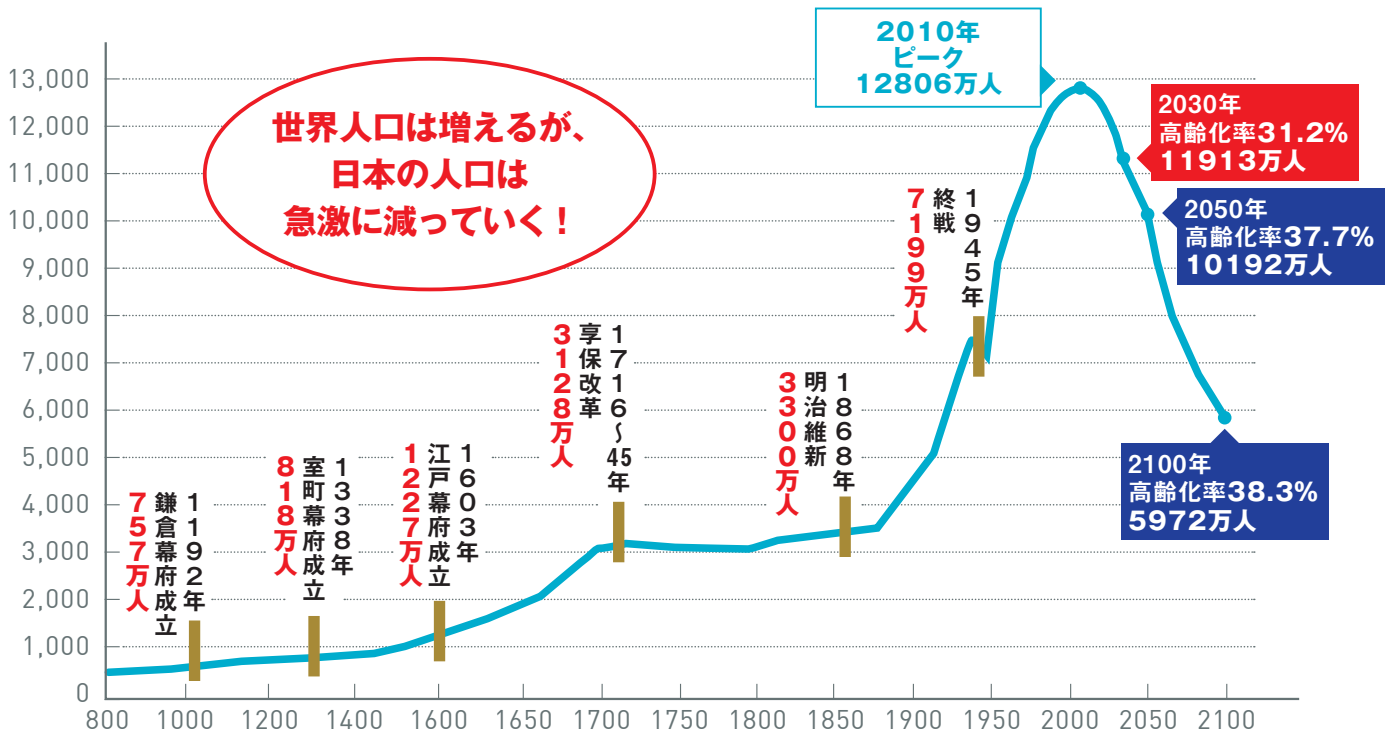


SDGsの「扉」を開こう！ ～「想像」から「構想」～

世界史上例がない急激な人口減少を迎える日本は社会課題先進国とされています。そこで、SDGsを理解する前に、現実（少子高齢化等）を知った上で、リアリティをもって未来を「想像」することで、あるべき社会を思い描く（「構想」する）ことが大切です。



2025年には団塊の世代が75歳以上になる。65歳以上は3人に1人になり、社会保障費・医療機関・介護施設不足に陥る



(出典) 終戦以前の人口は、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)をもとに国土交通省国土政策局作成
2010年以降の人口は、総務省統計局「平成27年国勢調査結果」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」をもとに作成

SDGsの初めの一步 ～「想像」から「創造」～

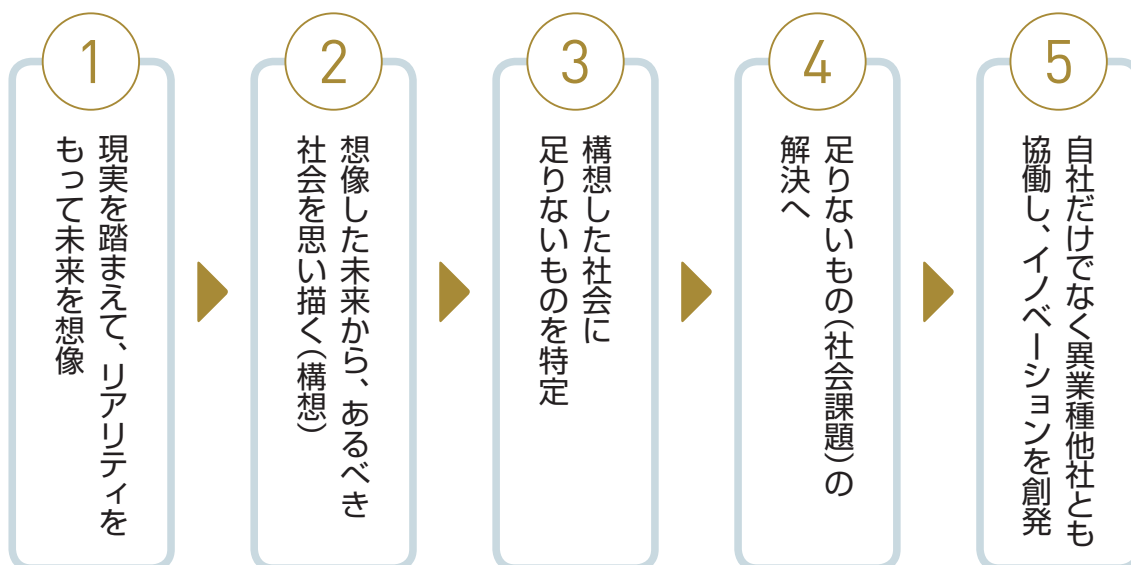
現実を知り、あるべき社会を思い描く（「構想する」）ことができたなら、ついに一步目を踏み出す時です。想像したあるべき社会を「創造」する段階になります。一步を踏み出すために重要なことは、社会課題を発見することです。この **発見力** が、企業の強みになります。



Q どのようにして社会課題を見つけるのか？

A 1：現実を踏まえてあるべき社会を思い描く
2：社会に不足しているものを特定する
3：不足しているものこそが「社会課題」である

「想像」から「創造」への5ステップ



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

国連が採択したSDGsとは

最近、書籍やネットでSDGSに関する豊富な情報を入手できますが、ここでも、おさらいをしておきます。

SDGsの考え方は「誰一人取り残さない」

SDGsは2015年の国連サミットでMDGs(ミレニアム開発目標)の後継として採択された国際アジェンダになります。気候変動や飢餓、貧困など国際社会全体で2030年までに解決すべき課題を、17の目標に分けました。MDGsは途上国が抱える課題の解決が中心でしたが、社会課題が多様化する中、SDGsでは環境・社会・経済の三側面のバランスが取れた社会を目指す共有目標になっています。基本的な考え方は、「誰一人取り残さない」です。法的拘束力はありませんが、気候変動や環境資源の枯渇などを背景に、消費者や取引先、株主が企業へSDGsへの取組を強く求めています。



SDGs採択までの流れ

MDGsとSDGs、3つの違い



MDGsは2015年までの目標(8個)、SDGsは2030年までの目標(17個)



MDGsは先進国による開発途上国の課題解決によっていたが、SDGsでは途上国だけでなく先進国の課題も対象に入れた



MDGsでは主にNPOや市民セクターに行動を求めていたが、SDGsでは企業にも参画を求めた

2015年9月 SDGs採択

国連に加盟している193カ国が全会一致でSDGsを採択。2030年に向けた17個の目標を設定

2012年 リオ+20 (国連持続可能な開発会議)

2015年以降の開発目標であるSDGsの策定を合意。

2000年 国連ミレニアム 開発サミット

2015年までに目指す開発途上国の貧困問題などの解決に向けた8つの目標を設定したMDGs(ミレニアム開発目標)を採択。

1992年 地球サミット (環境と開発のための国連会議)

アジェンダ21と森林原則声明を採択し、気候変動枠組条約、生物多様性条約の署名を開始。

1972年 国連人間環境会議

国連で初めて地球環境問題について議論。人間環境宣言が採択され、国連環境計画が設立。



1 貧困をなくそう
あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



2 飢餓をゼロに
飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



4 質の高い教育をみんなに
すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



5 ジェンダー平等を實現しよう
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



6 安全な水とトイレを世界中に
すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



8 働きがいも経済成長も
すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する



9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る



10 人や国の不平等をなくそう
国内および国家間の格差を是正する



11 住み続けられるまちづくりを
都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする



12 つくる責任 つかう責任
持続可能な消費と生産のパターンを確保する



13 気候変動に具体的な対策を
気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



14 海の豊かさを守ろう
海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



15 陸の豊かさも守ろう
陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



17 パートナリシップで目標を達成しよう
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化化する



内部、外部リスクの把握と回避への発想・取組が
ビジネスチャンスにつながります。

SDGsを起点としたビジネス事例

複数企業で障害者共同雇用

先導するのは花屋

職場環境を整えることや適切な仕事を割り振ることができないという理由から、中小企業の障害者雇用はあまり進んでいません。そこで、1社では難しかった障害者雇用を、共同で行う取り組みがあります。

東京都では国家戦略特区制度を活用するとLLP(有限責任事業組合)の設立が簡素になるので、この仕組みを活かして、都内にある障害者雇用を行う花屋が、複数の中小企業とLLPの設立を進めています。LLPへの出資者を募り、法定雇用率を全体で満たせるようにしたのです。

この花屋は約70人いる従業員の3分の2が精神障害者です。物流の過程で廃棄した花を再資源化してエコ名刺にする取組も行っています。



プラスチックごみで貧困解決

協業してプラごみを宝の山に

海外のスタートアップが海に漂うプラスチックごみを大手企業と協業することで、宝の山に変えました。海のプラごみの8割がフィリピンなど途上国の貧困地域に偏っています。

そこで、貧困地域でプラごみを回収する人を募りました。これだけではごみ回収事業ですが、特異なのは、大手電機メーカーと大手化粧品メーカーと組んだところ。集めたプラごみから再生プラ原料を製造して、大手化粧品メーカーに買い取ってもらいます。

回収した人には、個人のオンライン口座に現地通貨と結びついたトークンで対価を支払っているのですが、大手電機メーカーのブロックチェーン技術がこのシステムを支えています。



環境経営とSDGs

環境経営と同様にSDGsに取り組むときにも、PDCAサイクルが重要です。ここでは、SDGsの取組手順と活用によって期待できる5つのポイントをご紹介します。

1 決 意 思

話し合いの考え方を共有します。企業理念を改めて確認して、自社のビジョンについて共有したり、取組における主体(担当者、チーム)を決めたりしましょう。



2 計 画

自社の活動内容を棚卸して、SDGsと紐付けて説明できるかを考えましょう。取組に対する社内の理解と協力を得ることがポイントです。



3 実 行

何に取り組むのかを検討して、取組の目的、内容、ゴール、担当部署を決めます。効果が期待できる取組を抽出して、社内に広く周知して意見を集めましょう。



4 評 価

実行した取組を評価します。取組のレポートを作成して、経営者、社員を巻き込んでその結果について振り返りましょう。



5

改善

一連の取組を整理して、外部への発信にも取り組みましょう。PDCAサイクルを回しながら、SDGsと自社の事業活動を改めて考え、次の展開へ進みましょう。



SDGsの活用によって期待できる5つのポイント

環境・社会・経済の三側面の統合

① 企業イメージの向上

SDGsへの取組をアピールすることで、多くの人に「この会社は信用できる」、「この会社で働いてみたい」という印象を与え、より**多様性に富んだ人材確保**にもつながるなど、企業にとってプラスの効果をもたらします。

② 社会の課題への対応

SDGsには社会が抱えている様々な課題が網羅されていて、**今の社会が必要としていることが詰まっています**。これらの課題への対応は、**経営リスクの回避**とともに、**社会への貢献**や**地域での信頼獲得**にもつながります。

③ 生存戦略になる

取引先のニーズの変化や新興国の台頭など、企業の生存競争はますます激しくなっています。今後は、**SDGsへの対応がビジネスにおける取引条件**になる可能性もあり、**持続可能な経営を行う戦略**として活用できます。

④ 新たな事業機会の創出

取組をきっかけに、地域との連携、新しい取引先や事業パートナーの獲得、**新たな事業の創出**など、**今までになかったイノベーションやパートナーシップ**を生むことにつながります。

⑤ 環境に配慮した経営

PDCAサイクルでSDGsに取り組むことと、**環境経営のためにPDCAサイクル**を用いることは同じです。環境省のガイドラインに基づく**エコアクション21**への取組はSDGsへの取組となります。





一般財団法人 持続性推進機構
Institute for Promoting Sustainable Societies